

メッセージ：心の平安：私たちに神様の御子が与えられた

OIC の皆様、おはようございます。メリークリスマス！

神様から人類への最も偉大な贈り物である御子イエス様の誕生日のお祝いの日が近づくとつれ、私たちは神様の聖なる御言葉にある神様の愛と知恵に再び心を開きたいと思いません。預言者イザヤは、来るべきメシアあるいはキリストに関する最も有名な預言的言葉を残しています。＜イザヤ書 9 章 6 節＞

6 一人の男の子が私たちのために生まれます。その肩にすべての主権が与えられ、その子は、「すばらしい助言者」「全能の神」「永遠の父」「平和の君」と呼ばれます。

18 世紀、イエス様を信じて新しく生まれ変わったユダヤ人であったヘンデルは、栄光の作品『For Unto Us A Son Is Given (私たちに御子が与えられた)』を含むキリストを称える序曲『メサイア』を作曲しました。紀元前 700 年頃、イザヤは神様に選ばれた民イスラエルにこの言葉を語りましたが、その後、北のイスラエルとユダに分裂しました。イザヤは両国に、アブラハム、イサク、ヤコブの神様であられる全能の主なる神様を崇拝しているふりをしたことに対する神様の怒りを警告しました。イザヤ書 9 章において、彼の聴衆は主にユダであり、彼らに悔い改めさせるために神様が遣わされたアッシリアの侵攻に関するものでありました。しかし、聖書の歴史が示すように、イスラエルに対するイザヤの預言は、外国の軍隊による侵略をも招くこととなります。イスラエルはまた、神様の預言者や神様の掟を無視し続けました。＜イザヤ書 9 章 5 節＞

すばらしい平和の時代が訪れ、軍靴や血にまみれた軍服はみな焼き捨てられます。

この声明は、ユダとイスラエルという国々に永続的な影響を与えることを目的としています。預言された戦争の陰で、勝利と救い主が約束されたからです！神様はまた、これらの預言が全世界に影響を与えることを目指されました。

メシア、キリストは約束された- 私たちに御子が与えられた

紀元前 700 年のイザヤ書のメシア預言には、イエス様の故郷であるガリラヤのナザレの詳細まで含まれていました。ヨセフとマリアが赤ん坊のイエス様を連れてエジプトに逃れた

後、新約聖書<マタイによる福音書 2 章 20 節-22 節>にはこう書かれています。

20 「さあ、子どもとその母を連れてイスラエルに帰りなさい。子どもを殺そうとしていた者たちは死んだから」と言いました。

21 そこでヨセフは、イエスとマリヤを連れて、すぐイスラエルに帰りました。

22 ところが途中で、ユダヤの新しい王がヘロデ大王の息子アケラオだと聞いて、危険を覚えました。すると、夢でユダヤに行ってはならないと警告を受けたので、ガリラヤ地方に行き、

イザヤは<イザヤ書 9 章 1 節-2 節>に次のように書いています。

1 しかしながら、暗闇と絶望の時代は、いつまでも続くわけではありません。もうすぐ、ゼブルンの地とナフタリの地は神からの辱しめとさばきを受けますが、将来は、海沿いの道、外国人の住むガリラヤ、ヨルダン川の東の地は、神の栄光でまぶしいほどになります。

2 暗がりを歩いていた人たちは大きな光を見ます。それは、死の陰の地に住んでいた者を照らす光です。

こうして、イエス様はガリラヤで輝く世の光となりました。

イザヤは、アッシリアに完敗したかに見えましたが、勝利を預言し続けました。彼はメシアを見据えていました。<イザヤ書 9 章 4 節-5 節>

4 神は、ギデオンのわずかな部下で ミデヤン人の大軍を破った時のように、ご自分の民をつないでいる鎖を壊し、懲らしめの鞭をへし折るのです。

5 すばらしい平和の時代が訪れ、軍靴や血にまみれた軍服はみな焼き捨てられます。

私たちに御子が授けられた

<イザヤ書 9 章 6 節-7 節>

一人の男の子が私たちのために生まれます。その肩にすべての主権が与えられ、その子は、「すばらしい助言者」「全能の神」「永遠の父」「平和の君」と呼ばれます。

7 その主権は増し、平和は絶えることはありません。彼はダビデの王座につき、世界のすべての国々に真の正義と平和をもたらします。天の軍勢の主の熱意で、このことは必ず実現します。

「政府」や「正義」といった言葉を読むと、イエス様を拒絶したユダヤ人たちが、この預言からいくつかの「事実」を得て、イエス様の永遠の目的を誤解していたことがよく理解できます。西暦 30 年 4 月 2 日のイエス・キリストがエルサレムに入城した際に民

衆が枝をかざして凱旋を祝ったしゅろの日曜日にイエス様は勝利の王としてエルサレムに乗り込まれました。イスラエルはローマに侵略され、戒厳令下にありました。これは過越の祭りの最中であり、悪人たちの手によってイエス様が十字架につけられる直前のことでありました。ピラト率いるローマの兵士たちは、イエス様を十字架につけろというユダヤ教指導者たちの要求に従うことになります。

しかし、現代の人々がしばしばそうであるように、イエス様の明らかな勝利のエルサレム入城を見ていたユダヤ人たちは、現世あるいは自然的な心によってのみ理解される聖書の部分を選びました。ローマの圧政下にあったユダヤ人たちは、旧約聖書<イザヤ書 9 章 7 節>への真の信仰を抱き推測していました。

その主権は増し、平和は絶えることはありません。彼はダビデの王座につき、世界のすべての国々に真の正義と平和をもたらします。天の軍勢の主の熱意で、このことは必ず実現します。

そして<イザヤ書 Isaiah 9 章 4 節>

神は、ギデオンのわずかな部下で ミデヤン人の大軍を破った時のように、ご自分の民をつないでいる鎖を壊し、懲らしめの鞭をへし折るのです。

したがって、彼らイスラエルにとってメシアは獰猛な戦士でなければならないのです。もしイエス様がメシアなら、イエス様が悪霊を追い出されるのを見たように、ローマ人を追い出されるに違いないとユダヤ人たちは考えていました！

そして<イザヤ書 9 章 5 節>

すばらしい平和の時代が訪れ、軍靴や血にまみれた軍服はみな焼き捨てられます。

つまり、当時のイスラエルの人々が考えるメシアの支配とは、神様の民であるユダヤ民族を不当なローマ帝国から解放するために、剣とラッパを鳴らし、馬を駆り、血を流す戦争を意味します！しかし、彼らは霊的な真理を見ていませんでした。以前、神様が古代のメディア人に対してなさった方法です。神様は今、以前と何も変わらないはずだ、と彼らは考えました！

しかし、この同じ預言者イザヤは、イエス様の霊的な使命を次のように語っていました。

<イザヤ書 53 章 5 節>

しかし、私たちの罪のために傷つき、血を流したのです。彼は私たちに平安を与えようとして、進んで懲らしめを受けました。彼がむち打たれたので、私たちはいやされました。

それから約 700 年後、使徒ペテロはイエス様の死、復活、昇天後にイザヤの預言を再引用しています。〈ペテロ第二の手紙 1 章 24 節〉

キリストは、私たちの罪をその身に負って、十字架上で死んでくださいました。そのおかげで、私たちは罪から離れ、正しい生活を始めることができたのです。キリストが傷つくことによって、私たちの傷はいやされました。

また、どうして彼は勇敢で暴力的なメシアであるならば、平和の王子と呼ばれるのでしょうか？

〈イザヤ書 9 章 6 節〉一人の男の子が私たちのために生まれます。その肩にすべての主権が与えられ、その子は、「すばらしい助言者」「全能の神」「永遠の父」「平和の君」と呼ばれます。

私たちに御子が与えられた - その使命

そうです、この小さなイエス様の赤ちゃんは、罪深い人類のために、私やあなたのために死ぬという使命を帯びて来られました。イエス様の使命は聖書全体を通して語られており、その要約は次の通りです。〈ペテロ第一の手紙 3 章 18 節〉

キリストも苦しみました。罪を犯したことのない方であったにもかかわらず、私たち罪人のために死なれたのです。それは、肉においては死んでも、霊においては生かされて、私たちが神のもとに導くためでした。

紀元 30 年当時のユダヤ人たちは、ローマという圧制的で残酷な政府からの物理的な解放を熱烈に望んでいたため、その素晴らしい救いを逃しました。今日、私たちはイエス様の「他者のための死の使命」をどのように理解できるのでしょうか？聖書には、イエス様の最初の弟子たちもそれを見逃していたことが書かれています！彼らは「天国から地上へのイエス様の使命は死、そして復活」に衝撃を受けたからです。ペテロは非常に率直な態度でこう言いました。〈マタイによる福音書 16 章 21 節-23 節〉でこのように書かれています。

その時からイエスは、ご自分がエルサレムに行くことと、そこでご自分の身に起こること、すなわち、ユダヤ人の指導者たちの手でひどく苦しめられ、殺され、そして三日目に復活することを、はっきり弟子たちに話し始められました。

22 ところが、ペテロはイエスをわきへ呼んでいさめました。「先生。とんでもないことです。あなたのようなお方に、そんなことが起こってなるものですか！」

23 しかし、イエスはふり向いて、「サタンよ。下がれ。そのようなことを言って、わたしをわなにかける気ですか。あなたは人間的な見方をして、神の見方を忘れている」とおしかりになりました。

ペテロはすでに、イスラエルにおけるイエス様のメシア的支配を想像していました。ペテロは、イエス様が悪魔を追い出されたように、ローマ人を追い出すために生きていなければならないと思ったに違いありません！イエス様はペテロを「サタン」と呼び返してペテロにショックを与えました。イエス様はペテロが主を愛し、主に真実であることを知っておられました。しかしイエス様は、ペテロのように、私のように、またあなたのように。悪魔が人の心に忠告の力を働かせてだまそうとしていることも知っておられました。イエス様は＜マタイ 16 章 23 節＞で言われました。

そのようなことを言って、わたしをわなにかける気ですか。

神様の御子でありながら、イエス様は自らの人間性を認めました。イエス様は、人類が罪と神様の正しい裁きから解放されるための十字架を避けるようにさせる悪魔の罠に気がつけておられました。

この世界は今日もイエス様の使命を見失っています。現代の生活を考えれば、多くのことが変わったと気づくかもしれませんが、それでもまだ人の心の中は多くのことで同じです。地球上のいたるところで戦争が起きていることに気づきます。残忍で残酷なシリア政府は最近崩壊しました。ウクライナの大統領は、世界の超大国の指導者の一人であるロシアのプーチンと向かい合っています。自由を愛する人々、特に政府の下にある程度の自由がある国々では、抑圧された人々の勝利を願い、祈っていると思います。これはよい考えかもしれませんが、使徒パウロは弟子のテモテに次のように言っています。＜テモテ第一の手紙 2 章 1 節-3 節＞

1 さて、次のことを勧めます。すべての人のために、神のあわれみが注がれるよう熱心に祈り、とりなしなさい。そして、やがて彼らにも恵みを与えられると信じて、感謝しなさい。

2 また、すべての重い責任を負っている人たちのために祈りなさい。それは、私たちが主を深く思いながら、平安のうちに落ち着いた一生を過ごすためです。

3 そうするのはたいへん良いことで、救い主である神に喜んでいただけることです。

同時に教会は、今日の世界における神様の霊的な目的を見逃してしまわないように注意しなければなりません。神様は人間の計画に合わせてご自身の計画を変更されることはありません。聖書が〈エペソ人への手紙 1 章 11 節〉で教えているように、しばしば神様の計画は私たちの理解を超えています。

そればかりでなく、神様のご計画のままに、神様のものとなるように最初から選ばれていた私たちは、神様が喜んでくださる存在となっています。

そうです、人間の苦しみに対する思いやりは良いことです。しかし、罪による永遠の苦しみから魂を救うという神様のご計画が見えなくなってしまうかもしれません。これはユダヤ人が主イエス様にしたことです。イエス様はローマに対して武器を取らなかったことでイスラエルの人々を失望させました。イスラエルの人々は政府を征服することによってのみ平和を見たのであって、罪が赦されることによって平和を見たわけではありません。

このメッセージを書きながら、私は母国アメリカのある時期のことを思い出しました。

1960 年から 70 年代にかけてのあの時期は、〈イザヤ書 9 章 1 節〉によく似ていると感じました。

しかしながら、暗闇と絶望の時代は、いつまでも続くわけではありません。

この時期は、ベトナム戦争や有色人種の公民権に関して、権力に対する世論の対立がありました。アメリカ人は政府指導者に騙され、多くのアメリカ人青年をベトナムで虐殺してしまったと感じました。一見、民主主義が失敗したように見えるのは、事実が議会から隠されており、そして議会はアメリカ国民を代表していたのです。

その結果、多くの苦い思い出と混乱が生まれました。路上では、かつて兵士に撃たれた

「平和行進者」による暴力がありました。兵士たちが戦っていたのは、騒々しく暴徒化した群衆というような危険な状況にしか見えなかったものと戦ったからです。1963 年に J.F. ケネディ大統領が暗殺されて以来、アメリカ人の政府に対する信頼は低下していました。多くの人に絶望的になりそうな雰囲気や絶望させるような精神がありました。ベトナム戦争は 1973 年に正式に終結しましたが、アメリカが歴史上初めて戦争に「敗北」したことは明らかでした。苦い「喜び」や「皮肉な平和」の精神は、イギリスの有名な音楽作家、ジョン・レノンが書いた「クリスマス」の歌に表現されていました。曲のタ

イトル： So This Is Christmas (そう、これがクリスマスだ) です。

歌詞には「Happy Christmas (幸せなクリスマス)」や「I hope you have fun (楽しんでね)」といった言葉が並んでいます。もちろん、ビートルズの音楽はすべてそうであるように、いわば音楽神経をくすぐるシンプルな曲が書かれています。この曲は忘れます。私が言いたいのは、キリストのいないこの「クリスマス」ソングのメインテーマは人間中心主義だということです。ベトナム戦争や公民権など、全世界に影響を及ぼす闘争への皮肉を表現しています。"Have a Happy New Year (良いお年をお迎えください) . Make it a good one, Without any fear (恐れることなく、良い年にしよう) のような歌の中の言葉。予想していた通り、この曲にはイエス様のことは何も書かれていません！アメリカ政府に対する怒りは当然かもしれませんが、その怒りをイエス様の誕生日を使って表現するのは間違っています！しかし、現代アメリカにおけるこのことは、人類の救済や不正義からの解放、あるいは国家間の平和条約による戦争の停止による「Merry (おめでたい喜び)」の探求です！1971年の世界は、ユダヤ人が西暦30年に見逃していたものを見逃していました。イエス様は、国や政治的信条に関係なく、人々の心や考えのための平和の君です。

私たちに御子が与えられた - メリークリスマス

レノンの歌には「Merry (おめでたい喜び)」の精神はありませんでした。そうです、より良い未来への人間的な希望が込められていました。最後のコーラスでは「The war is over (戦争は終わった)！」を含めて何度も繰り返しています。ベトナムが平和になれば、19歳の誕生日を迎えるまで生きられるアメリカの若者が増えるのは事実でした。1968年の「テト攻勢」の後、高校時代の友人の多くが徴兵されて陸軍に入隊したのを見ました。多くのアメリカ人が死にました。しかし、世界中で流血が起きている今、「メリークリスマス」の本当の意味は何なのでしょう。悲しみと苦痛に満ちた世界で、どうして真の喜びがあるのでしょうか？

親愛なるクリスチャンの皆さん、ひとつ覚えておいていただきたいのは、イエス様はこの地上にそのような人間の平和政府は存在しないと預言されたということです。 <マタイによる福音書 24章 3節-7節>で、弟子たちが時の終わりとイエス様の再臨について尋ねたとき、イエス様はこう言われました。

3 そのあと、イエスがオリーブ山の中腹に座っておられると、弟子たちが来てこっそり尋ねました。「そんな恐ろしいことがいつ起こるのですか。あなたがもう一度おいでになる時や、この世の終わりには、どんな前兆があるのでしょうか。」

4 そこでイエスは、彼らに説明されました。「だれにもだまされないようにしなさい。

5 そのうち、自分こそキリストだと名乗る者が大ぜい現れて、多くの人を惑わすでしょう。

6 また、あちらこちらで戦争が始まったといううわさが流れるでしょう。だがそれは、わたしがもう一度来る時の前兆ではありません。こういう現象は必ず起こりますが、それでもまだ、終わりが来たものではありません。

7 民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、至る所でききんと地震が起こります。

それゆえ、「悲しみと苦痛に満ちた世界で、真の喜びを伴うメリークリスマスになるにはどうしたらいいのですか？」という問いに対する答えは、ただひとつしかありません。戦争がないのは奇跡的な政府ではありません。それは平和の王、イエス様の中にあります。なぜなら、私たちに神様の御子が与えられたからです。

「メリークリスマス」とだけ他の人に言って、その中にあるキリストの名前を読もうとしない人が多いのは、日本だけではありません。実は、英語で「メリークリスマス」言うとその言葉の中に「イエスキリスト」は入っていません。英語圏の国々の方が、「メリークリスマス」と言うときに、「UNTO US A SON IS GIVEN」（私たちに神様の御子が与えられた）ということを知っていないという失敗、罪の意識が実際にはもっとあります。

あなたはブルース牧師、どのようにしてこんな幸せが可能なのですか、と聞かれるかもしれません。私はそのことについて考え、祈っていました。私の答えは、罪人はクリスマスの祝祭日そのものを崇拝することができるのであって、クリスマスの祝祭日が祝う人物イエス・キリストを崇拝することはできないということです。＜伝道者の書3章11節＞にあるように、人間は心の中に永遠性を持って創造されました。

あらゆることには、ふさわしい時というものがあります。また神は、人間の心に永遠を思う思いを与えました。しかし、人は神の働きの全体を見ることができないのです。

だから何かを崇拝することは幸福感を与えます。明るいクリスマスのイルミネーションや陽気な音楽を楽しんだり、家族が集まったりすることは、決して罪深い行為ではありません。しかし、クリスマスの祝日を崇拝し、神様の贈りものであるイエス様を無視したり拒絶したりすることは罪です！

人の心には平安と罪は決して共存しない - 私たちに御子が与えられた

預言者イザヤは、神様が神様の民イスラエルに語られたように、次のように語りました。

<イザヤ章 57 章 20 節-21 節>

20 それでもなお逆らう者は、少しも静まることのない海のようなのだ。片時も休まず泥を吐き出している。 21 そのような者に平安はない。」 こう神は語ります。

使徒ヨハネは紀元 55 年頃の新約聖書で、神様と御子について次のように書いています。

<ヨハネ第一の手紙 5 章 11 節-12 節>

11 神の言われたこととは、神が私たちに永遠のいのちを与えてくださったこと、そして、永遠のいのちが神の御子のうちにあるということです。

12 そういうわけで、神の子を信じる人にはいのちがあり、信じない人にはいのちがないのです。

戦争をして平和を作り出すメシアを探していたユダヤ人たちは、まさにそうでした。ヨハネはイエス様についての福音書の中でこう書いています。

<ヨハネによる福音書 1 章 10 節-13 節>

10 ところが、世界を造った方が来られたというのに、だれもこの方に気づきませんでした。

11- 12 ご自分の国に来ながら、ご自分の民に受け入れられなかったのです。この方を心から喜び迎えたのは、ほんのわずかな人たちだけでしたが、受け入れた人はみな、この方から神の子どもとなる特権をいただきました。それにはただ、この方が救ってくださいると信じればよかったです。

13 信じる人はだれでも、新しく生まれ変わります。それは、人間の熱意や計画によるものではありません。神がそう望まれたからです。

ここに真の喜びがあります。真の平安は、イエス様を信じ、イエス様を受け入れることによつてのみ可能となります。この新しく生まれ変わることが、すべての新しい信じる人々の心の奥底に新しい人間を生み出します。純粹さと、イエス様と神様との関係を切望する新しい心。これは神様の賜物です。

ギリシャ語の“Septuagint”は、イエス様の弟子たちが聖書を引用する際に最も使用した旧約聖書版でした。旧約聖書のギリシャ語 Septuagint 訳は、イザヤ書第 9 章においてイエス様を「永遠の父」と呼ぶことの混乱を取り除きます。<イザヤ書 9. 章 6 節/SEPT 版>は「その名は、すばらしい助言者、力ある方、権力者、平和の君、来るべき時代の父と呼ばれる」と書かれているからです。聖書全体は三位一体を明確に示しています： 天の

父なる神様-御子-御霊なる聖霊様。ここで天の父なる神様は御子なる神様を与えました。しかし、イエス様は十字架上でイエス様が血を流された血の犠牲によって、人が来るべき時代に入るための源であり、神聖になられたのです。

国家間の平和は、私たちの心の中に平安がなければほとんど意味をなしません。これは、誰も奪うことのできない永遠の御国です。残酷な政府の指導者も、悪魔も、死も、この御国からあなたを引き離すことはできません。聖書<ローマ人への手紙 8 章 39 節>に約束されている通りです。

あるいは、私たちが空高くのぼっても、海の底深くもぐっても、どこにしようと、神の愛から私たちを引き離すことはできません。

これが神様の使命です。イエス様の使命は十字架上で完了しました。私たちは終わることのない平安を手に入れることができます。イエス様は<ルカによる福音書 21 章 33 節>で言われました。

天と地とは消えてなくなります。けれどもわたしのことばは、永遠に真実なものとして残るのです。

地上における神の御国 - 私たちに御子が与えられた

私は、クリスマスに何百万人もの人々が抱く感情は、「クリスマス」の「キリスト」を見なくても、聖霊様によるものだとは心から信じていることに留意したいです。神様は、たとえば「小さな赤ちゃんイエス様」であっても、人々を主イエス様への信仰へと導き、引き寄せておられます。心の中にキリストがいない人は、自分が感じていることを裏付ける事実もなく、感情だけで生きています。彼らは神様やイエス様について何も考えていないのでしょう。しかし、彼らはクリスマスという歴史的出来事の実を指し示し、歴史的イエス・キリストを指し示す音楽や歌の歌詞を耳にしています。

私が8歳くらいのとき、クリスマスのイベントに行きました。アメリカの自宅近くのビルでクリスマス・キャロルを歌っていました。かなり異端的なグループで小さなソングブックを配っていました。あの日の数分間だったかもしれない「特別な平安」を、私は今でも思い出します。私が平和の王イエスキリストのもとに辿り着くまでには、神様の忍耐が20年必要でした。しかし、聖霊様は異端であろうとなかろうと、そこにあるものを利用されました。

また、1990年代に、私がアメリカのボストン大学に植えた教会のメンバーが医者になりました。医学部に提出した論文のひとつに、アメリカの主要病院における死亡と入院に関する徹底的な研究がありました。科学的、医師的な見地から見ても、クリスマス・シーズンは、一年を通して比べると、病院の患者数も死亡者数も紛れもなく明らかに減少していました。本当に、このクリスマスのこの良い知らせはすべての人のためのものです。

私たちに御子が与えられた- イエス様、あなたの誕生日

神様は私たちの周りの世界に、この日が御子の誕生日であることを思い出させます。そうです、神様は計り知れない愛の海を注ぎ続け、私やOICにいる罪あるキリストの兄弟姉妹にしてくださったように滅びゆく人々を救おうとされています。しかし、平安という感情だけでは十分ではありません。＜ローマ人への手紙 10 章 17 節＞にあるように

信仰は、キリストについてのことばに耳を傾けることから始まるのです。

私たちクリスチャンは、キリストの平安を内に持っています。はい、私たちはしばしば自分の気持ちに押しつぶされそうになり、疑念と戦うかもしれません。しかし、クリスマスを迎えるたびに、私たちはイエス様と直接お会いする日に近づいていきます。2025 年がイエス様に直接お会いする年になるかもしれません！

私たちはまた、罪人にイエス様の力強い御名とイエス様についての話を聞かせようとする愛の義務も負っています。私の好きなゴスペル・シンガーの一人、George Beverly Shea は、かつて世界中のビリー・グラハムのクルセイドで歌っていました。私たちは、クリスマスソング『Put Christ Back Into Christmas (クリスマスにキリストを取り戻そう)』のように、神様の家族以外の人々に対する神様の愛を示すことができます。私は、

「Don't wish me a Happy Holiday (楽しい休暇なんて言わないで)」という一節が好きです。この祝福された聖なる日に、クリスマスにキリストを取り戻しましょう！そうです、聖日であることを忘れるほど、お祭り気分になりがちですが、イエス様の誕生日なのです。

地上の平和の君-私たちに御子が与えられた

神様は私たちを贖うために、平和の君である御子を遣わされました。十字架上の苦しみをもって、私たちの魂を買い取られました。先ほど＜ペテロの第一の手紙 2 章 24 節＞で述

べたように

キリストは、私たちの罪をその身に負って、十字架上で死んでくださいました。そのおかげで、私たちは罪から離れ、正しい生活を始めることができたのです。キリストが傷つくことによって、私たちの傷はいやされました。

私たちはイエス様を信じて新しく生まれ変わったので、霊的な病は癒されました。この聖句はすべて「罪の問題」についてのものです。はい、イエス様は、私たちが癒しを受け取る信仰を持つとき、私たちの肉体的な病気や苦悩を癒してくださいます。それは、誰かがあなたのために信仰を持つことも含まれます。しかし、決して終わることのない本当の喜びは、新しい心と罪の赦しです。イエス様は来るべき時代の父です。イエス様は天国への私たちの入り口であり、時の終わりにイエス様が戻って来て、地上に御国を築かれるときの入り口なのです。その時、神様の御子はユダヤ人が望んだ勇敢な戦士となります。イエス様は戦争のない完全な平和の政府を作る王となります。＜イザヤ書 9 章 5 節＞

すばらしい平和の時代が訪れ、軍靴や血にまみれた軍服はみな焼き捨てられます。

この聖句は、イエス様が地球上の敵をすべて滅ぼした後に成就し、戦争の終結を意味します。＜イザヤ書 9 章 7 節＞もまた

その主権は増し、平和は絶えることはありません。彼はダビデの王座につき、世界のすべての国々に真の正義と平和をもたらします。天の軍勢の主の熱意で、このことは必ず実現します。

こうして、天軍の主である神様が、これを引き起こすのです。神様は全能であられるので、いかなる人間の政府によっても妨げられることはありません。その時、イザヤのもう一つの預言が成就します。＜イザヤ書 11 章 9 節＞

主の聖なる山のどこでも、傷つけたり危害を加えたりするものは一つもありません。水が海を満たすように、主を知る知識が地にあふれるからです。

そうすれば、教会と世界は平和の君、イエス様のもとでひとつになります。私たちに御子が授けられたからです。

キリストにある兄弟姉妹よ... 神様の賜物、神様の御子、神様の言葉では言いつくせない賜物から受けた喜びを世界に示しに行きましょう。

メリー・クリスマスとハッピー・バースデー・イエス様を一息にそして明らかに言うことができるのです！ さあ世界に神様から受けたイエス様と喜びを示しに行きましょう！

祈りましょう！...